

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 田野浦 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

##### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を上回っていた。</li> <li>・全ての領域で全国平均を上回っており、言語についての知識・理解・技能の能力の定着が見られた。</li> </ul>
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の中における主語と述語の関係などに注意して、漢字を正しく使う問題についての正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題についての正答率が低かった。</li> </ul>
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答率は全国平均より少ないが、正答率は全国平均より下回っていた。</li> <li>・書く領域、読む領域で課題が見られた。自分の思いや考えを書く機会を増やしたり、読解力を高める問題に多く取り組む必要がある。</li> </ul>
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの参加者として、質問の意図を捉える問題についての正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む問題についての正答率が低かった。</li> </ul>
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を上回っていた。</li> <li>・「図形」以外の「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」の領域で全国平均を上回っており、基礎的な算数の力の定着が見られた。</li> </ul>
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の大きさの理解を問う問題についての正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>180^\circ</math> や <math>360^\circ</math> を基に、分度器を用いて、<math>180^\circ</math> よりも大きい角の大きさを求める問題についての正答率が低かった。</li> </ul>
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答率は全国平均より少ないが、数学的な考え方を観点とする問題に対する正答率が全国平均を下回っていた。</li> </ul>
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める問題についての正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する問題についての正答率が低かった。</li> </ul>
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答率は全国平均より少ないが、正答率は全国平均より下回っていた。</li> <li>・自然現象への関心・意欲・態度は高いが、科学的な思考・表現や観察・実験の技能、自然現象についての知識・理解面で課題が見られた。</li> </ul>
	よってきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題については、正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果を基に分析して考察し、内容を記述することや、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、記述する問題についての正答率が低かった。</li> </ul>

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「宿題をしている」児童の割合が全国平均より高く、学習習慣が身に付いている。</li> <li>・「1日あたり、勉強している時間が」が全国平均より低かった。宿題とともに自主学習に取り組みさせるようにするなど工夫して、家庭学習の充実を図っていくようにする。</li> <li>・「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童の割合は、全国平均と同じくらいだったが、「自分には、よいところがあると思う」児童の割合が、全国平均よりやや低かった。あらゆる機会を捉えて、児童の自己肯定感を高めるように努める。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ユーカリタイム」では、算数科・国語科の活用力を高める問題に取り組み、管理職や少人数指導教員も教室に入って指導・支援を行う。「田野浦タイム」では、現学年の内容の課題を出し、基礎的・基本的内容の定着を図る。</li> <li>・特に本校では、算数科を中心とした授業改善を行っているので、さらに研究を深める。学習指導方法について、教材研究を行い、指導技術の向上を図る。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「田野浦つ子がんばりカード」の取組みを継続し、担任が指導の徹底を継続して行う。校長もチェックを行い、称賛する。また、学校通信、学級通信などで児童の頑張りについて、家庭への啓発、基本的な生活習慣と家庭学習の定着を図る。</li> <li>・児童の学習課題に沿った宿題や家庭学習をさせる工夫、よくがんばっているノートの提示等を行い、自学への意欲を高める。</li> </ul>
--